

2025 年 4 月 14 日
株式会社日立プラントサービス

消費エネルギー・原単位「見える化」システム「Enewatcher」の導入事例を公開

株式会社日立プラントサービス（取締役社長：風間 裕介、本社：東京都豊島区／以下、日立プラントサービス）は、お客さまの環境目標管理や省資源化、DX を支援する消費エネルギー・原単位「見える化」システム Enewatcher*1（エネウォッチャー）を株式会社東海理化（代表取締役社長：二之タ 裕美、本社：愛知県丹羽郡大口町／以下、東海理化）に納入し、導入事例インタビュー記事を公開しました。

*1 Enewatcher：Enewatcher は株式会社日立プラントサービスの日本における登録商標です



※導入事例インタビュー記事はこちら：http://www.hitachi-hps.co.jp/business/office_commercial/enewatcher/customer-case/index.html

■導入の背景

東海理化では、中長期環境目標「カーボンニュートラル戦略 2030」実現にあたり、工場 CO₂排出量の現状把握と実施施策の効果検証を検討していました。特に、生産ライン単位で CO₂排出量が把握でき、社員全員の省エネに向けた意識づけができるサービスを探しており、Enewatcher が生産ラインごとの計測システムや LCA*2 システムと連携し一括管理できる点、またイントラネットと連携し直感的・日常的にエネルギー消費量を把握できる点を評価いただき、導入にいたりました。

*2 LCA: ライフサイクルアセスメント。製品やサービスの環境負荷を多角的に定量化する手法。

■導入による効果

Enewatcher 導入によりエネルギーの使用状況が可視化されたことで、どの生産ラインでどれだけの無駄が発生しているかが分かり、社員の改善意識が高まりました。今後、本社工場をモデルラインとして Enewatcher を運用し、音羽工場、豊田工場にも順次拡張していく予定です。

本導入事例についての詳細は、下記インタビュー記事でお読みいただけます。

http://www.hitachi-hps.co.jp/business/office_commercial/enewatcher/customer-case/index.html

■Enewatcher について

Enewatcher は、空調、電気設備など各種工場インフラ設備の消費エネルギーのほか、生産工程ごとの生産数量などの生産系データを取り込み、エネルギー原単位の「可視化」を図ることができるシステムです。インフラ設備、生産ラインや部門別の電力、ガスなどの使用量、CO₂排出量を把握、可視化し、「測る」「知る」「共有」を通してお客さまのカーボンニュートラルや DX の実現をサポートします。

[エネウォッチャー（Enewatcher）：エネルギー管理システム：株式会社日立プラントサービス](#)

■日立プラントサービスについて

日立プラントサービスは、空気、水、エネルギーなど幅広い分野でお客さまのさまざまなニーズにお応えし、快適な社会の実現をめざす総合エンジニアリング企業です。各種プラント・工場設備のエンジニアリングからメンテナンスサービス、リニューアルまでを提供し、また、デジタルイノベーションを加速する日立の Lumada*3 との連携による設備運用の効率化ソリューションなどを通して、お客さまのビジネスの成長と、社会課題の解決に貢献します。

詳しくは、日立プラントサービスのウェブサイト(<https://www.hitachi-hps.co.jp/>)をご覧ください。

*3 Lumada: お客さまのデータから価値を創出し、デジタルイノベーションを加速するための、日立の先進的なデジタル技術を活用したソリューション・サービス・テクノロジーの総称。詳しくは、こちら (<https://www.hitachi.co.jp/products/it/lumada/>)をご覧ください。

■お問い合わせ先

株式会社日立プラントサービス 経営戦略本部 経営企画部 コーポレートコミュニケーショングループ

〒170-6034 東京都豊島区東池袋 3-1-1 サンシャイン 60 34F

電話：03-6386-3434

E-mail：hps.keisen.zb@hitachi.com

以上